



神奈川大学名誉教授 小林康宏 先生 近影



## 小林康宏先生退職記念号に寄せて

学長 兼 子 良 夫

小林康宏先生は、2016年3月31日付けをもって本学を定年退職され、長年にわたる学術研究と教育の多大なご功績に基づき同年4月1日付けで本学名誉教授となりました。

先生は、1975年に中央大学大学院商学研究科商学専攻博士課程を単位取得後退学され、松商学園短期大学を経て、1986年に本学に着任され、以来専任教員として30年にわたって経済学部での研究と教育に携わって来られました。その間、立教大学、フェリス女学院大学、大東文化大学、常葉学園浜松大学でも教鞭をとられ、中央大学企業研究所や英国リバプール大学の客員研究員も務められました。

先生の専攻分野は「経営財務論」であり、学会活動としては、日本財務管理学会の副会長はじめ日本経済学会連合の評議員、日本経営財務研究学会の会計幹事、証券経済学会の幹事などの要職を務められてこられました。

先生のご研究において特筆すべきは、多国籍企業の財務研究をもとに企業の国際的な資金調達と運用に関する資本動向の研究を纏められ、2016年3月に上程された「国際経営財務の研究—多国籍企業の財務戦略—」（税務経理協会）が、その独創的観点と研究内容が高く評価されるとともに財務管理研究の発展に大きく貢献されたとして、日本財務管理学会の学会賞を2016年10月に受賞されたことです。

また、先生は、学内の要職を長く務められ、本学並びに経済学部の発展にも大きく貢献されました。1993年に貿易学科主任になられて以来、ご退職までに合わせて11期も学科主任を務められ、学部行政のかじ取りを務めてこられました。つまり、本学経済学部行政のすべてを知る先生と形容しても過言ではない存在の先生でありました。私が経済学部長の時も、伏して先生に学科主任をお願いして、学部行政の要諦たる人事等を運営していただいたことは、いまもって感謝の念に堪えません。先生には、その後も、学事のさまざまについて相談に乗っていただいております。私にとって言わば「指導教官」ともいふべき貴重な存在の先生でした。

さらに、先生は、大学院経済学研究科委員長、教学評議会評議員、教学改革委員会委員の要職をそれぞれ務められ、大学院および全学の行政課題の解決に大きく貢献されました。

先生の教育上の功績において特筆すべきは、経済学部教員として初めて「2015年度 ベストティーチャー賞」（神奈川大学）を受賞されたことです。先生は、学生の教育にも情熱を傾注され、ご担当された講義とゼミナールに対する人気は高く、毎年、先生のゼミナールを希望する学

生が多く集まり、これまで前途有為な人材を数多くの輩出されております。授業運営と長年にわたる高い教育上の功績が評価されての受賞と聞いております。

最後になりますが、今後も本学のためにお力添えをいただきますようお願い申し上げますとともに、先生のこれからの益々のご活躍とご多幸を心より祈念申し上げ、記念号の挨拶の言葉といたします。